

1年

子供同士の交流場面を広げて

『かぞくって いいな』の実践

札幌市立もみじ台小学校 佐藤 達博

◆単元のポイント

○子供の興味関心を引き出して

この単元では、教師の家族紹介からスタートして、子供たちからも自分の家族を紹介したい、聞きたいという意欲を引き出しながら、家族紹介の活動に入ります。

次に、母親の大変さと優しさに触れながら、もっと詳しく観察し調べることに興味をもたせ、クラスとして49もの母親の仕事を見つけていきました。内容もただ「洗濯をする」だけではなく、洗濯機の使い方や洗濯物の干し方、母親の様子等にも目を向けた子供たちもいました。

母親の仕事を理解しながら、家族に対する感謝の気持ちをもちはじめた子供たちは「家族の中の自分」を意識し、今までに自分がした「お手伝い」を振り返る活動に取り組んでいきました。

○よさを認め合う活動をめざして

たくさんのお手伝いの中で、子供たちは、料理に関するお手伝いを交流し合って、自分のお手伝いの技を見せてあげたい、友だちの技を見せてもらいたい、教えてもらいたいと「めざせ、料理の鉄人」の活動をすることになりました。

交流し合う中で、家族に喜んでもらうために自分ももっと何かをしたいという気持ちが広がってくれることを期待しました。また、次のみがき上げたり、教わったりしたお手伝いの技を家庭で披露する活動を通し、褒められ認められることから自分自身に効力感や自信をもち、毎日の生活を元気一杯に過ごしてもらいたいと考え取り組んでいきました。

◆単元の目標

○家族に喜んでもらうもらうことや自分にできそうなことを進んでしようとする。 (関心・意欲・態度)

○家族の様子や自分の得意な料理等を友だちに伝わるように、発表することができる。 (思考・表現)

○家族はそれぞれ仕事や役割をもち生活していることに気付く。 (気付き)

◆単元の構想（11時間扱い）

主な活動	備考
・先生の家族紹介を聞いたり見たりする。 ペーパーサートで (紙芝居、一人芝居、人形劇の方法も紹介)	家族の紹介の仕方等を知らせ、興味をもたせる。
・家族のことをいろいろ調べる週間を設けて毎朝少しづつ発表する。	家族構成上の問題に細やかな配慮をする。
・家族探偵団員となって家族の仕事を観察し調べてくる。 ↓ 〔毎日少しづつ調べ、朝の会で発表〕	観察カードを使用する。
・家族の仕事クイズ大会の準備や練習をする。 (絵やペーパーサートなどで出題)	グループで協力し発表の仕方を工夫させる。
・家族の仕事クイズ大会をする。 (司会者やプログラムを作って)	合格カードに出題者からシールを貼ってもらう。
・自分のしたことのある料理に関する手伝いを発表し合いながら、お料理交流会で何の料理をするか考えグループを作る。	色々な料理の選択肢を提示する。
・お料理交流会でする料理の技を家庭でもみがきながら交流会の準備をする。	食品道具の使用上の注意。
・技をみがいた料理の交流会をする。 下ごしらえ → お料理交流会 (料理紹介→体験交流会→お礼メッセージ)	出店方式の前半、後半で友だちのよさを気付かせる。
・みがいた技や教わった技を家の人に披露したり、お手伝いを行ったりする作戦を考え発表し合う。→報告会をする。	事前に学級通信で協力をお願いしておく。

◆実践するにあたって

後半の活動（“めざせ、料理の鉄人！”と命名）では、食べ物を扱った活動であったこともあります。子供たちは大変意欲的に取り組みます。衛生管理面での配慮が少々大変なところですが、子供たちの楽しそうな笑顔を見ていると実践したことに対し、充実した思いを抱くことができます。家庭協力体制も欠かせない単元ですが、保護者との関係もより親密になります。